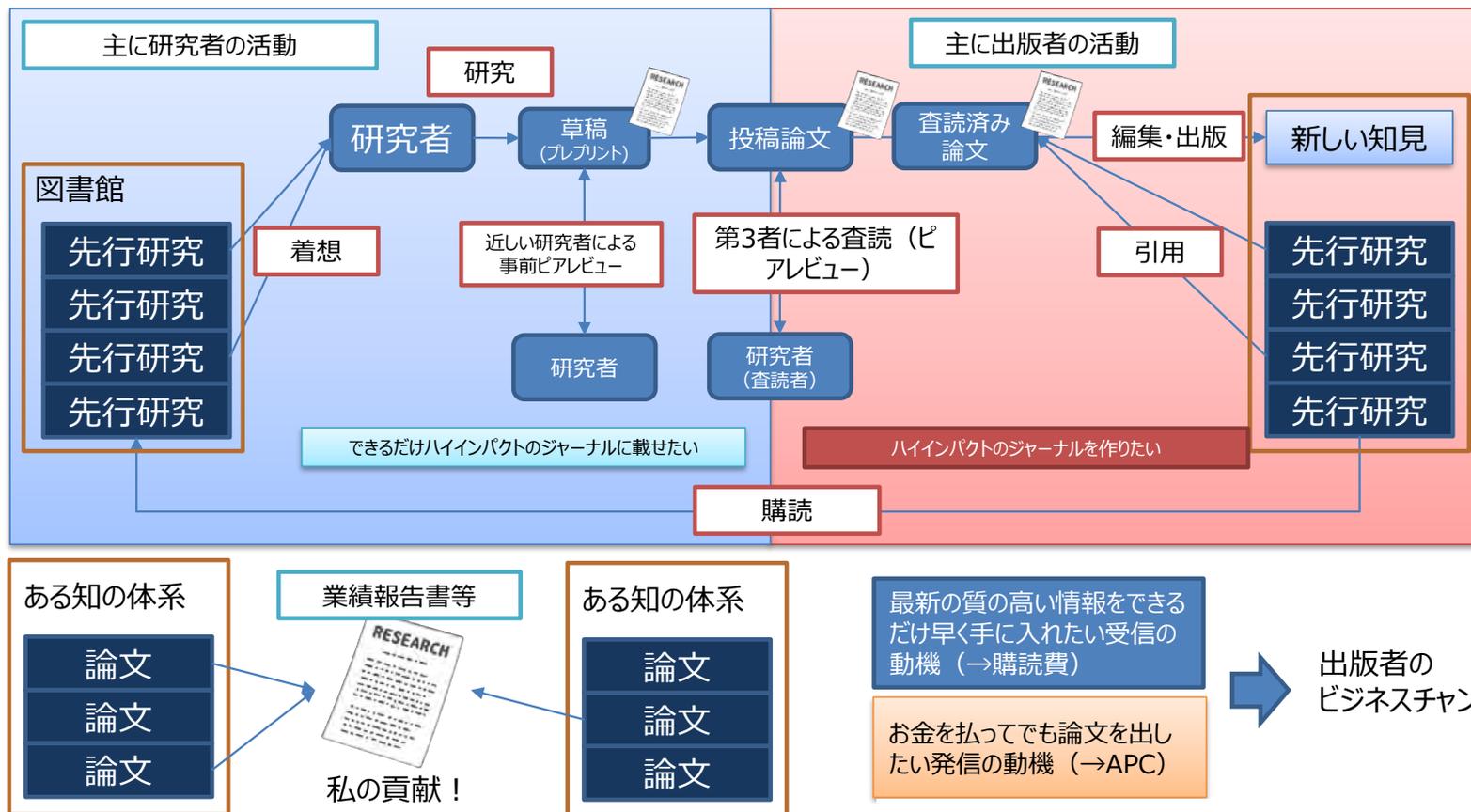




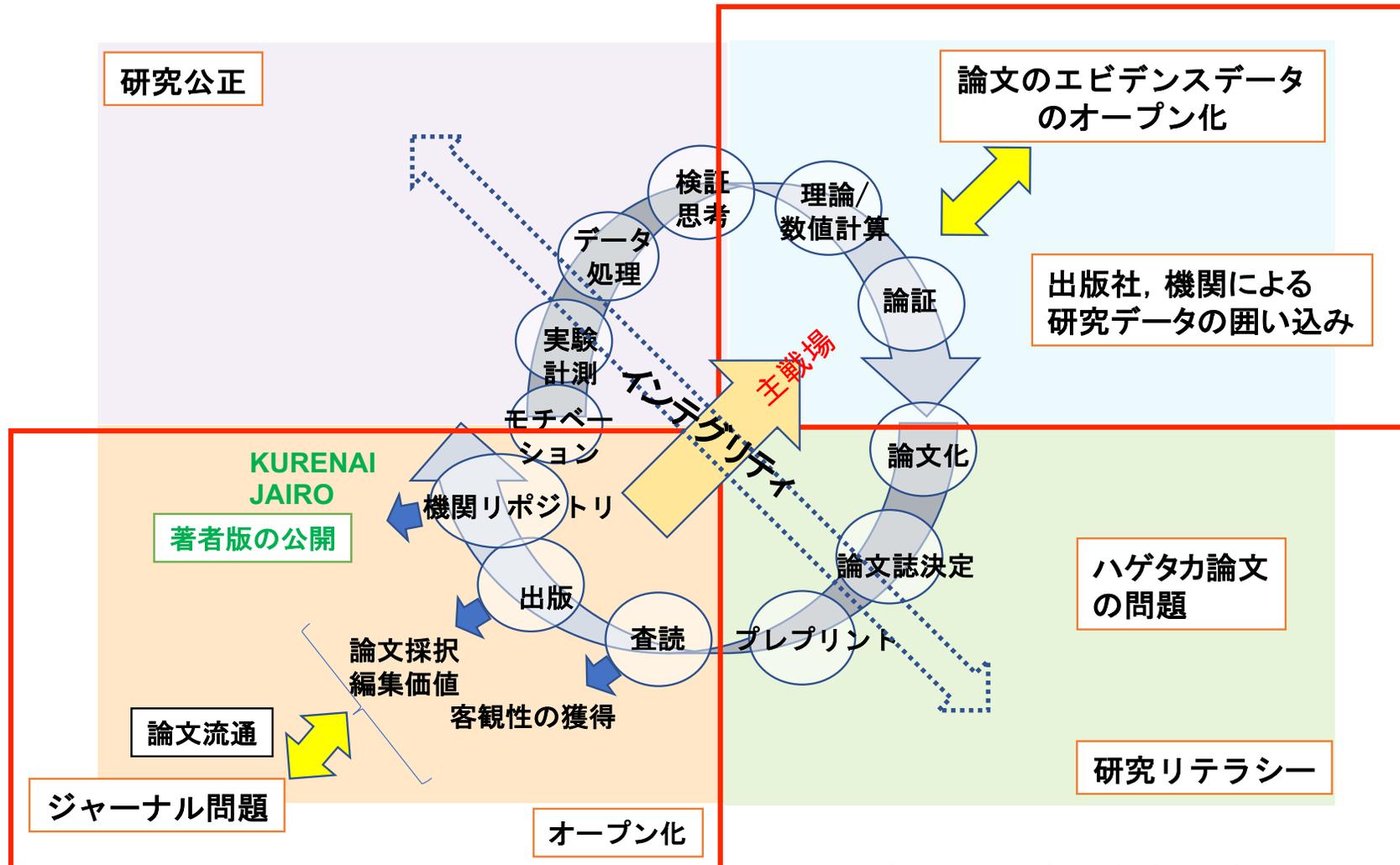
査読付き論文を中心とした研究の生態系とビジネス

- 査読付き論文の蓄積は、知を積み上げ科学を発展させてきた(on the shoulders of giants)
- 査読付き論文は研究者コミュニティにおける“通貨”の役割を果たしている
- 良い論文（通貨）をどれだけ持っているかが、評判、昇進、研究費獲得と密接につながっている



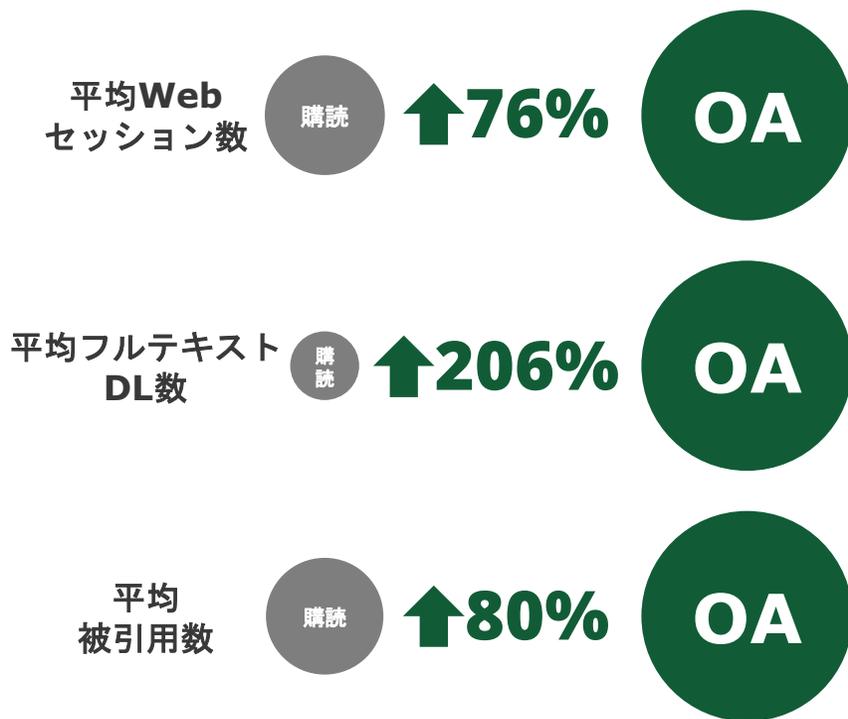
大学における研究のライフサイクルの構図の変化 (2010年代前半)

エビデンスデータの保証



Wiley掲載論文にみるOA化が研究成果に与えるインパクト

Wileyが出版するOA論文(フルOA+ハイブリッドOA)の出版後4年間のパフォーマンス比較調査結果(2015-2020)*1



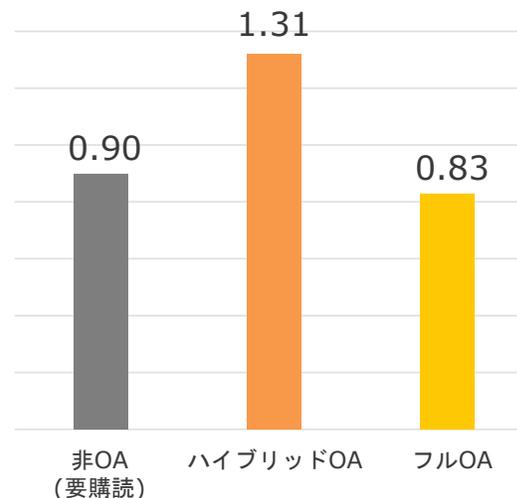
1. WILEY "Wileyのデータで見るオープンアクセス(OA)論文出版の利点"

オープンアクセスと論文被引用数の増加

OACA: Open Access Citation Advantage

論文をOAにして誰でもアクセスできるようにすることで利用される可能性が高まった結果、被引用回数も増加する

異なる出版タイプ別の被引用指標の比較*1
(出版社等を問わずランダムに抽出された、WoS収録の2009-2015年、DOIを持つ100,000論文がサンプル)

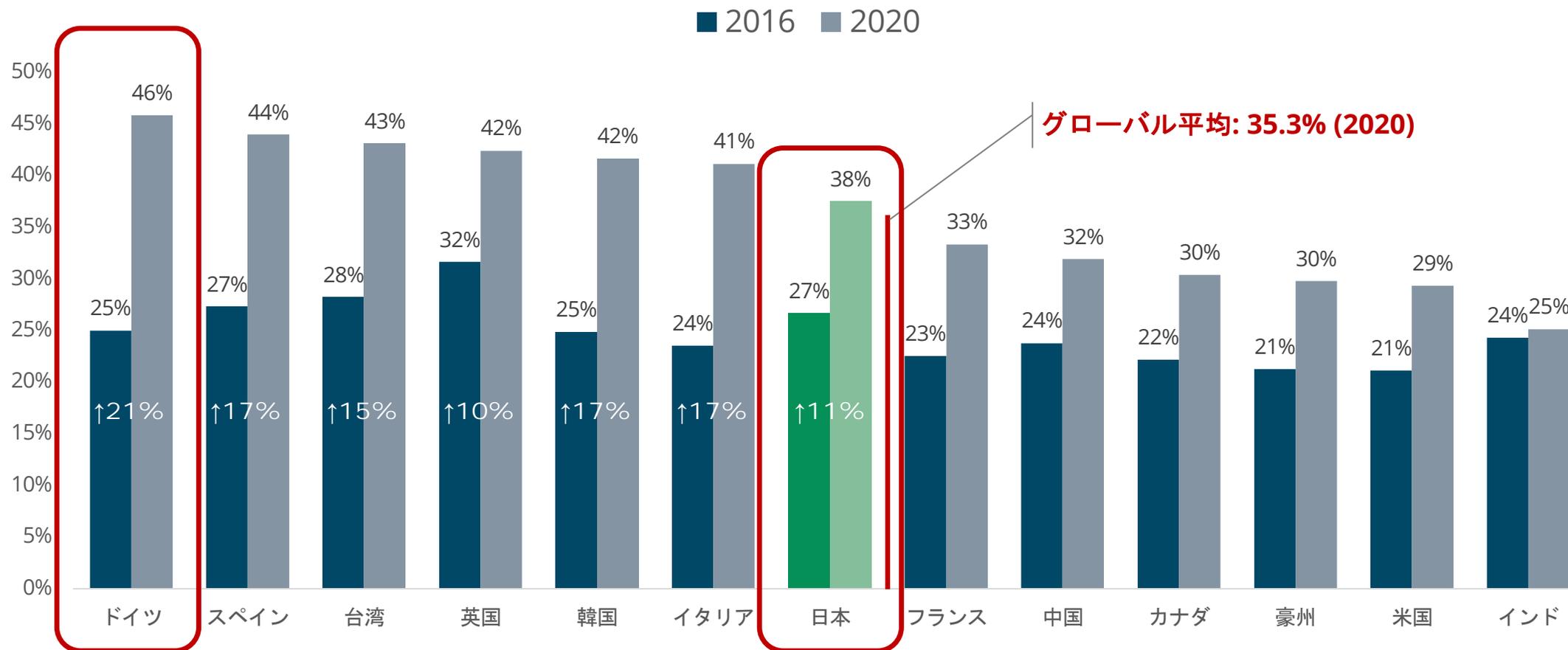


購読論文とフルOA論文を比較するとフルOA論文の数値は低い
→フルOA誌は刊行から間もないタイトルが多い一方、評価を確立した著名なジャーナルの多くは購読誌であるから？

ハイブリッドOA論文(購読誌に掲載され著者がAPCを支払うことでOAに)は**1.31**となり平均より**30%多くの引用**を受けている。

各国のOA論文の割合比較

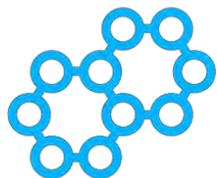
日本はグローバル平均以上のOA論文の割合を維持しているが、政府や研究助成機関の方針を背景に**欧州各国のOA化率の伸びが顕著**



分野別OA論文数の伸び率比較 Global vs. Japan

* 2019-2020 growth rate

Global



MULTIDISCIPLINARY
SCINCES

↑ 13.4%

複合科学



CHEMISTRY,
MULTIDISCIPLINARY

↑ 33.7%

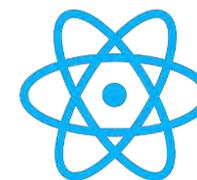
化学



GENERAL & INTERNAL
MEDICINE

↑ 21.6%

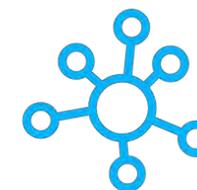
医学



MATERIALS SCIENCE,
MULTIDISCIPLINARY

↑ 39.3%

材料科学

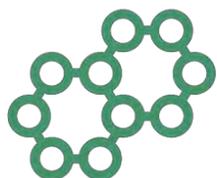


BIOCHEMISTRY &
MOLECULAR BIOLOGY

↑ 28.4%

生化学・分子生物学

Japan



MULTIDISCIPLINARY
SCINCES

↑ 5.2%



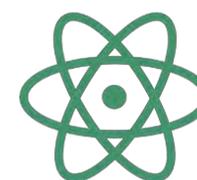
CHEMISTRY,
MULTIDISCIPLINARY

↑ 15.0%



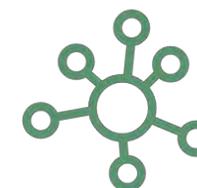
GENERAL & INTERNAL
MEDICINE

↑ 8.3%



MATERIALS SCIENCE,
MULTIDISCIPLINARY

↑ 14.4%



BIOCHEMISTRY &
MOLECULAR BIOLOGY

↑ 16.7%